



# Flash News

三重大学

第66号

目次

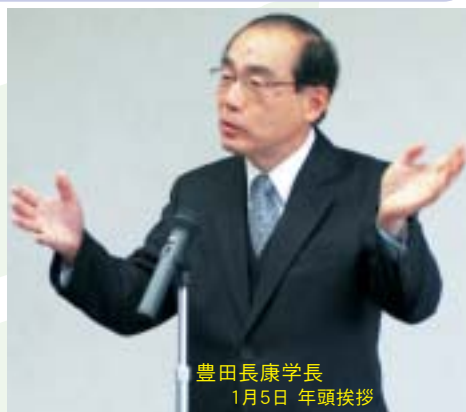
お知らせ & ご報告

- 平成21年 豊田学長「年頭挨拶」
- 「平成20年度 容器包装3R推進環境大臣賞」優秀賞を受賞
- 女性研究者支援イベント（アジア・コラボ・フォーラム）を開催
- 学長表彰
- 地域イノベーション学研究科入試説明会を開催
- 障害者雇用推進協議会を開催
- 第1回三重大学リサーチセンターシンポジウムを開催
- キャリアデザイン2008を開催
- 第2回三重大学先端研究シンポジウムを開催
- 留学生交流パーティーを開催
- 「燦々会」から小児病棟へ寄附
- 「平成20年度三重大学学内企業研究会」を開催

・国際交流センターから

## 平成21年 豊田学長「年頭挨拶」

「未曾有の金融経済危機の中でこそ、イノベーションの芽を育んだ企業や国が生き残ります。地域からイノベーションを芽生えさせるために、地方大学は大きく貢献できます。三重大では、いよいよ『地域イノベーション学研究科』や地元密着型の産学官連携伊賀研究拠点が4月からスタートします。現状維持の姿勢では予算は減り続けますが、今回、地域に根差した思い切った改革を行うことで新たな予算を獲得できました。本学はこのような攻める姿勢をどんどんと貫いていくべきです。地域から世界を目指すイノベーションに三重大が貢献するためには、イノベーションを生み出す人材を育て、研究を行うことが必要です。そのためには、三重大自身のイノベーションが必要であり、大学構成員一人ひとりがイノベーターとなり、それぞれの持ち場において、常に改善・改革を行っていただくようお願いいたします。」



## 「平成20年度 容器包装3R推進環境大臣賞」優秀賞を受賞

12月19日、本学は、環境省が容器包装廃棄物の3R推進に資する活動の奨励・普及を図るために設けている標記優秀賞（地域の連携・協働部門）を受賞致しました。これは、大学の環境方針と環境目的の実現のため、本学環境ISO学生委員会による3R活動（エコバッグ作成、放置自転車の再使用、循環型古紙回収再生利用など）や大学生協レジ袋有料化が計画的かつ総合的で、レジ袋使用量を97%削減するなど高い実績を得るとともに、若年層が身近に環境配慮行動を実践する契機となったことと、この取り組みが他大学へも広がっており、波及効果も大きいと評価されました。今回の受賞は、環境先進大学として環境問題に積極的に取り組んでいる本学の励みとなります。



## 女性研究者支援イベント（アジア・コラボ・フォーラム）を開催

12月20日、本学のアジア地域協定校5校から女性研究者を招き、各国で女性研究者が抱える問題点について意見交換を行いました。同時にポスターセッションも開催し、大学院生ら43名の英語での研究発表が行われました。また鳥羽方面にスタディー・ツアーを行い、参加者同士の交流を深めました。この催しは、女性研究者支援を啓発する大変有意義なものとなり、また国際的な催しを通して大学院生の国際意識の向上につながるよい機会となりました。



## 学長表彰

女子弓道部は、11月24日に伊勢神宮で行われた「第32回全日本学生弓道女子王座決定戦」に、東海地区代表として5度目の出場を果たし、見事準優勝に輝きました。また、個人賞でも矢を全部的中させた選手に贈られる「皆中賞」を2人が受賞し、「優秀選手賞」を1人が受賞しました。この栄誉を讃え、1月8日に学長表彰が行われました。

## 地域イノベーション学研究科入試説明会を開催

1月9日、本学講堂小ホールにおいて、標記説明会が開催されました。同研究科は、地域産業界が求める即戦力型人材である「プロジェクト・マネジメントができる研究開発系人材」の育成に特化したもので、「地域の将来を担う中核人材の育成」と「地方立脚型の企業が抱えている成長障害要因の克服に必要な学際的研究」を地域産業界と連携しながら実行していくことを目的とし、平成21年度に新設されます。当日は、30名を超える入学希望者が参加し、説明を受けました。

**障害者雇用推進協議会を開催**

12月12日、本学における障害者の雇用を推進するため、標記協議会（学外委員：三重労働局長、津公共職業安定所所長、学内委員：学長、総務・財務担当理事、教育学部附属特別支援学校長）が開催されました。協議会では、三重労働局長の挨拶の後、障害者雇用担当官等から雇用の促進について説明があり、続いて、本学から今年度、障害者3名を雇用したことなどの取り組み状況の説明がありました。今後は、専門部会を設置して具体的に検討していくことになっています。

**第1回三重大学リサーチセンターシンポジウムを開催**

12月8日、ホテルグリーンパーク津において、標記シンポジウム「生活習慣病予防と健康長寿の実践にむけて」が開催されました。このシンポジウムは平成20年9月にスタートした「三重大学疾患ゲノム研究センター」（センター長：生命科学支援センター山田芳司教授）を中心に、創造開発研究センターが支援する第1回のリサーチセンターシンポジウムとして行われました。慶応義塾大学病院の広瀬信義診療部長による「百寿者調査のご紹介」等の健康長寿についての興味深い講演が行われ、市民や大学の関係者など多くの人々が熱心に聴き入っていました。

**キャリアデザイン2008を開催**

本学のキャリア教育科目は2008年度15コマ、受講生は約1300人で、共通教育の科目数は全国1です。その科目の一つ「キャリア・ピア・サポート」では、12月17日に学生主催で標記シンポジウム「人生の羅針盤を手に入れよう」を開催しました。人生の先輩方から「将来の生き方や仕事等」について学びました。参加者や実行委員から「素晴らしい刺激を受けた」との声が多数寄せられ、成功裏に終わりました。



**第2回三重大学先端研究シンポジウムを開催**

12月19日、コラボ産学官プラザin東京において、昨年に続き第2回目の標記シンポジウムが開催されました。豊田学長、三重県科学技術政策監大泉賢吾氏の挨拶の後、新エネルギー・産業技術総合開発機構、科学技術交流財団の方々の講演があり、続いて本学リサーチセンター「三重大学極限ナノエレクトロニクスセンター」（メンバー：工学研究科：平松和政教授・センター長、伊藤智徳教授、小海文夫教授、三宅秀人准教授、松井龍之介准教授、畑浩一准教授）による本学独自の最先端研究の成果が発表されました。企業や研究機関から約80名の研究者が参加し、熱心な討論が交わされました。

**留学生交流パーティーを開催**

12月17日、講堂において、国際交流センター主催の標記パーティーが開催されました。留学生と学長・理事をはじめ各部局長、留学生の指導教員、留学生のサポートサークルに所属または、国際交流行事に参加経験のある日本人学生、および津市国際交流室、ホームステイin津からの来賓など235名が参加して交流を深めました。なお、パーティー終盤には、応援団の盛大なパフォーマンスが行われ、楽しいひとときを過ごしました。



**「燦々会」から小児病棟へ寄附**

1月6日、附属病院小児病棟では、津高校1958年卒業生らの合唱団「燦々会」（代表：内藤かつさん）より同会が12月に津市で開いたチャリティーコンサートの募金41万円の寄附を受けました。これは、かつての小児病棟医師であったメンバーの縁により「病気で苦しむ子どもたちのために役に立ててほしい。」と願い寄附されたものです。小児病棟では、「治療や生活と遊びの環境作りに活用させていただきます。」とお礼の言葉を述べました。現在小児病棟には、がんや白血病、先天性疾患などの患者約40名が入院しています。

**「平成20年度三重大学学内企業研究会」を開催**



厳しくなる就職活動にそなえ、1月6日～8日の3日間、講堂において標記研究会が開催されました。全国から合計343社の企業が参加し、各企業ブースでは、就職活動を始めた学生たちに業界や企業の説明がありました。参加学生は、学部3年生・大学院1年生を中心に3日間で述べ1300名を超え、訪問した各企業ブースで、採用担当者や本学OB・OG社員である先輩の話を熱心に聞き、メモをとったり質問を投げかけたりする姿が見られ、会場は終始盛況でした。

**お知らせ＆ご報告**

**国際交流センターから－《学長表敬訪問&大学訪問》**

- ◎イベロアメリカン大学(ドミニカ共和国)
1. 日時：平成20年9月5日(金) 11:00~12:00
  2. 訪問者：医学部学生4名
  3. 同席者：駒田医学系研究科長、ガバザ医学系研究科教授、堀医学系研究科准教授

- ◎上海交通大学医学部(中国)
1. 日時：平成20年10月9日(木) 9:15~9:45
  2. 訪問者：医学部学生2名
  3. 同席者：駒田医学系研究科長、堀医学系研究科准教授

- ◎タイ王国大使館学生部公使参事官
1. 訪問日：平成20年12月1日(月) 10:00~12:00
  2. 訪問者：ワリン・スチャラン(Mr.WarinSUKCHAROEN)
  3. 同席者：酒井学術情報部長、瀬古国際交流チームリーダー

**投稿のお願い**

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。小林英雄 (kobayashi@mie-u.ac.jp) または 井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》編集責任者/理事・事務局長 三浦春政

